

「オンライン学園祭実施を振り返って」

彩藤ゼミ 発表者 3年 濱 大貴

共同発表者 3年 村田 晴斗

1. 概要・目的

2021年11月13日～14日において実施された「2021年度多摩祭」の実施・運営を振り返る。

今年度は前年度と同じく「オンラインでの開催」が実行委員会発足前から決定しており、それを踏まえた形で企画・実施・運営を行うことになった。また企画にあたって前年度と同じく多摩大学彩藤ゼミの協力を受ける形となり、今回は実行委員長も彩藤ゼミ所属のメンバーが担当する形となった。

今年度のメインテーマは「コネクト ～地域と仮想空間と社会と～」となった。実施にあたっては前年度と同じく、「メタバースプラットフォーム Cluster」で行うことになった。またメイン会場として彩藤ゼミ製作の「バーチャル多摩大学（セカンドモデル）」を使用した。その製作や改造も並行して行った。

2. 具体的な内容

当初から「完全オンライン実施」であることを念頭において企画の設計を行った。会議方法も昨今の情勢を鑑みて夏休み期間中は完全オンライン実施とし、GoogleMeetを使用したオンライン形式で行った。夏休み以後は専用教室にて対面会議を実施した。

企画製作にあたって最も重要視したのは「いかにして体感させるか」である。これはオンラインという環境下においていかに「その場にいるか」を参加者に感じさせるかが重要であった。同時並行して各種企画の広告、商品内容の決定なども行った。

実施した企画は最終的に実行委員会管理下のもので合計7つ。それ以外の物も含めて合計で15個の企画を実施。最終来場者数合計は1670名となった。

3. 実行にあたっての体制

実行委員長を頂点とし、兼職を含めて合計11名の実行委員にて2021年度多摩祭は運営した。

前年度までの運営体制から一新し、『企画部』『運営部』『技術部』の実質3部門体制を取り、企画・運営を進めた。

4. 反省点と今後の課題

今回の多摩祭実施における反省点は以下のように考える。

「広告活動不足」=下記の人員不足を発端として、時間的不足などもあり、学内での十分な広告活動を行えなかった。

「人員不足」=全オンライン実施であった為、従来どおりの学園祭企画とは別の方面での技術が必要な場面があった。またそれに対応できる人員は充足していたとは言い難かった。

「当日運営の予想不足」=初めての本格的な運営実施もあり、当日のスケジュールなどの考慮が十分とは言えなかった。

今後の課題としては以下のように考える。

「オンライン実施に関しての人材の調達」=オンライン実施を行えるだけの人員の長期的な調達と育成。

「オンライン実施のノウハウの共有や蓄積」=学園祭以外でもオンラインイベントを実施し、その経験やノウハウなどを継承していくことで、より良いオンライン学園祭になっていくと考える。

「オンライン実施方法の統一と浸透」=本年度実施を経験して、「すべての人がオンライン化に対応できるわけではない」という個人的な感想がある。今年度以降、再びオンラインでの実施を視野に入れるのであれば、このような「対応できない人々」をどのように活かしていくのか、どのようにして慣れていくのか、についても大きな課題となると考える。